

### (3) 樺山城跡



春には桜まつりでにぎわう上米公園は、元々は樺山城でした。では、公園建設に伴って樺山城は完全に破壊されたのかというと、そうではなく、次ページの縄張り図のように主郭やその周りは残っています。主郭部分には2基の記念碑が建立されています（下写真）。記念碑の建立時期が、昭和26年（1951）9月ですので、公園としては古いと言えるでしょうか。ちなみに、左の「樺山公園」の記念碑は、正面に「昭和二十六年九月講和記念建設」と刻字されています。つまり、サンフランシスコ講和条約の記念に建立されたという珍しい記念碑です。右は、正面に「樺山城跡」と刻字されているのみで、建立時期は不明ですが、「樺山公園」の記念碑と同時（昭和26年）に建立されたと考えられています。





宮田池西方の丘陵端部に立地する。西側は公園建設により破壊を受けている。主郭と見られる曲輪は良好な形で遺存しており、南側に取り付く虎口やその南側の虎口空間が認められる。主郭の東側は急峻な切岸を形成しており、現在小径が通るところは堀切であったと見られる。



樺山城縄張り図（吉本正典原図作成）

この縄張り図は、平成11年（1999）に宮崎県教育委員会より発行された『宮崎県中近世城館跡緊急調査報告書Ⅱ 詳説編』の181ページからの抜粋（複写）です。図の方位は上が北になります。

この樺山城跡は、本ホームページの「三股町指定文化財第2号 樺山どんの墓」でも触れたとおり、不明な点が多いのが現状です。縄張り図を見ても、駐車場や宮田池が建設される前の状態が分からない以上、山城というより居館跡ではないかという印象さえ受けます。



階段を登ると1ページ目の記念碑があります

樺山資久が「樺山」という地名から名字を取ったというのは「樺山どんの墓」で触れたとおりですが、問題は樺山氏と「樺山」の関係に不明な点が多いということです。樺山始祖である資久の活動を確認できる時期は南北朝時代ですが、資久がいつ樺山を領有したのかという明確な史料は現在のところ見つかっておりません。資久以降も「樺山」領有を示す安堵状や宛行状といったものはありません。さらに、応永元年（1394）の梶山合戦以降の樺山氏（二代目音久から）は、都城市の野々三谷城に本拠を移しますので、「樺山」との関係はさらに希薄となります。「樺山」の研究は多くの課題を残したまま現在に至っています。